



2017年2月28日

(毎週水曜日発行)



原裕理事長

ミラクルソル工法、ジオファイバー、人工腐食化技術

## 『環境と防災、維持管理』

## ミラクルソル協会が技術研修会



日特建設㈱の近藤安徳次長

ミラクルソル協会（原裕理事長）は22日、2017年度『環境と防災と維持管理技術』技術研修会を唐津市文化体育館文化ホールで開催した。建設会社やコンサル、官公庁などから約160人が参加。県内外の建設企業5社が環境負荷低減の技術やグラウンドアンカーの健全度調査など防災・維持管理技術、人工腐食化技術によるフルボ酸の生成など環境保全技術などについて報告した。

冒頭、原理事長が挨拶に次ぎ演題『気候変動と災害～そしてミラクルソルの環境負荷低減技術』で講演。二酸化炭素等の温室効果ガスの放出などにより、気温や水温を上昇させ、海面上昇、降雨量、降雪量の変化やこうした状態変化を引き起こしている。日本近海の海水温の上昇率は世界平均の2倍に達し、とりわけ日本海側が高くなっている。14年8月の広島市の土砂災害は記録的な集中豪雨によるもので、「警戒区域」「特別警戒区域」が未指定だったため、これを機に国土交通省は全国で同指定を急速に促進した。この後、原理事長は発泡廃ガラスのミラクルソルによる水環境工法、環境土工法、環境緑化工法を説明。環境負荷低減工法の普及を訴えた。

次いで、日特建設㈱技術部・近藤安徳次長が『老朽化吹付法面の診断・調査設計から対策工の設計施工について』の演題で報告。老朽化吹付法面の診断では、熱赤外線映像

法などが採用されているが、貫入土壌硬度計測による風化深度調査やドローンを用いた撮影画像の活用など新しい点検・調査が各自治体で試みられている。また、対策工として、同社の特許工法であるニューレスプ工法とジオファイバー工法を説明した。

午後からの第二部では、国土防災技術㈱佐賀営業所・小川伸彦所長が演題『環境保全と人工腐食化技術』で報告。人工腐食化技術とは、有機物を原料とし、人工的に短時間で腐食物質を製造する技術。同社は同技術を使い唐津市の虹の松原の松葉を人工腐食させ、フルボ酸を生成。プレミアムシャンプーや植生基盤材を生産し販売。虹の松原の保全活動を支援している。また、人工腐食化技術を用いた荒廃地での植生回復を可能としたタフグリーン工法を紹介した。

次いで、サンスイ・ナビコ㈱営業部・田村允氏と営業開発部・高橋里沙氏が『グラウンドアンカー健全度調査例ー維持管理性・長期定着特性に優れたFixrグラウンドアンカー工法』の演題で報告。Fixrグラウンドアンカー工法は、同アンカーの頭部定着具のテンドングリップとナットが耐食材料のステンレス鋼を使用することで、供用50年の場合、トータルコストで43%の縮減になると報告した。

また、岡三リビック㈱リバイブテクノ部機能保全室・沼田治次長が演題『道路橋におけるコンクリート表面保護工法と鋼橋の部分塗装技術について』で報告。コンクリート表面保護工法として、RCGインナーシールけい酸塩系表面含浸工法、超薄膜スケルトンはく落防災コーティングについて説明。鋼橋の部分塗装技術で超薄膜無溶剤系セラミックエポキシ樹脂塗装を紹介した。

【2月26日HP掲載】